
マリオ&ルイージ1・2・3

スマッシュ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マリオ&ルイージ1・2・3

【Nコード】

N8071Y

【作者名】

スマッシュ

【あらすじ】

マリオとルイージのゲーム1と2と3の話を書いていきます。

ちよっと攻撃が少しずつただけどスマブラになってきてるような気がします。

1 番目の冒険 プロローグ

スマッシュブラザーズで逃走中を現在書いている
スマッシュです。

今回はマリオ&ルイージRPGで全ての話を書いていきたいと思
います。

ではどうぞ、

マメーリア王国からの使者が来ました。

マメばあ「キノコ王国とマメーリア王国の交流のために来ました。
女王からのプレゼントでございます」

ピーチ（何かしら？）

パカッ、ブシュウー

マメばあ「ゲヒヤヒヤヒヤ！」

ドカドカドカ

ボンッ

「きゃははは」

ひゅっスポ

すっすっ

バタッ

「ゲヒヤヒヤヒヤ！」

空が雷雲があった。

次の日

「おっい」

「ん？何キノピオ？」

キノピオ「ルイージさん、臨時ニュースをみましたか？」

ルイージ「いや見ていないよ。それがどうしたの？」

キノピオ「では、マリオさんに聞いてみます」

ドキューン

家の中

キノピオ「マリオさ〜ん」

???「らららっららら〜らっららっららら」

キノピオ「ムーディな鼻歌が聞こえる」

キャーーーーー

キノピオ顔真っ赤

だっだーーーーードカッ

???「何だ?さっきの叫び声と地震は?」

???「あっ、キノピオ!」どんどん

キノピオ「マリオさん、ピッピーチ姫が・・・」

マリオ「何ー!?」ドキューン

たたたたたピョンドカッ

ルイージ「あれ〜」

城では

???「しっかりするのだ、ピーチ姫!」

マリオ「うおーーーーピーチ姫ー!わわわわっ」

キッキー

ルイージ「うわーーーー」

ピウーーーーードカッタタタタ

???「ンーガ何をするんだマリオまたしてもお前か今度こそ倒してやる!」

マリオ「クッパなぜいるんだ!」

クッパ「それはお前を倒してからだ!」

バトルシーン

マリオ「ウリヤ、ジャンプだ」

クッパ「うおっ。こっちの番だ!」

ガッピョン!

マリオ「あぶねー、もう一回攻撃だ!」

ドカッドカッ!

クッパ「ググッグギェ」

クッパ「・・・」ピョン

クッパ「ウガーこんな事をしている場合ではないぞ!」

キノピオ「マリオさん、ピーチ姫の声が盗まれてこんな声に」

ピーチ「pしえr「pq「@ふいつ」

ドカドカドカ

キノピオ「変わりにこんな爆弾声に」

ピーチ「y dばおいどおあ s s v d p」ドカドカドカ

ピーチ「他 s d bういお s h q k c b」ドカドカドカ

クッパ「こんなピーチを捕らえたら我輩の城が壊れてしまうではないか。マリオ何とかしろ!」

マリオ「何とかしろっていわれてもね」

キノピオ1「マリオさん、姫の声を取り戻してください!」

キノピオ2「そいつはマメーリア王国の使者です!」

クッパ「ガハハハ、では、そいつを捕まえて声を取り戻すことよ、マリオ準備しろ!」

マリオ「わかったよマメーリアへ行く準備すればいいんだろ?」

ピーチ「まだ s ベルウォン d くいお d n v g d j かい f h r y g n f y g」

クッパ・マリオ・ルイージ「ぎゃ~~~~~」

ドカーーーン

マリオ「準備だよ！それと、出発だ！」（前書き）

今からこれを書きながらゲーム マリオ&ルイージRPGをやっている
いきます

（言葉を間違えないため）

マリオ「準備だよ！それと、出発だ！」

今の爆発で危機一髪逃れたマリオ準備のためキノコタウンを回っていた（中庭かもしれない）

キノピオ1「あっマリオさん、もうすぐマメーリア王国へ出発ですね！どうぞ、置きお付けください」

マリオ「ああ、わかったよ」

キノピオ2「マリオさん僕のキノコとっていただけませんか？」

マリオ「おう、取ってやる」ピョン「取ったよ」

キノピオ2「ありがとうございますマリオさん、ついでにこれ持ってってください」

マリオはスーパーキノコをもらった。

マリオ「ありがとうございますキノピオ」

キノピオ3「どこにいったのかな？」

マリオ「どうしたの？」

キノピオ3「僕の大事なものがどこかにいつてしまったんだ、探してくれるかな？」

マリオ「探してやるよ！」

1分後

マリオ「あったぞ！」

キノピオ3「ありがとうございます、これもってってください」

マリオは1UPキノコをもらった

マリオ「ありがとう」

ノコノコ「どこにクッパ様が行ったのか分かるか？」

マリオ「あっち→（だと思う）」

ノコノコ「そうか、では失礼」

ルイーダ「やあ兄さん、クッパがここに来たよ」

マリオ「ふん」

ルイーダ「クッパは向こうに歩いていったよ」

マリオ「じゃあ行こう!」

????「マリオどの」

マリオ「ん?キノジい?」

キノジ「ピョン」

キノジ「マリオどの、長旅になるようなのでスツケースを渡すぞ!」

マリオはスツケースを手に入れた。

キノジ「それと、100コインじゃ」

マリオは100コインもらった

キノジ「ところでルイーダどのも行かれるのですかな?」

ルイーダ「いや行かないよ。お迎えだよ」

キノジ「お迎えです?なら、わしと同じじゃの。では、マリオどの、わしは先に行っておくぞよ」

????「マリオ」

マリオ「あっ!」

クッパ「遅い!なにをしていたのだ!」

マリオ「その辺のキノピオの手助けだよ!」

クッパ「後は我輩のクッパ軍団集合だ」

ルイーダ「じゃあね」

キノジ「・・・」

マリオ・キノピオ・クッパ「・・・」

クッパ「んが!どこへ行った!?!、お前もクッパ軍団へ入ったのか?」

ピョンピョン

クツパ「そうかそうか、そんなに入りたいのか！」

ルイージ「えっ！」

キヨロキヨロキヨロ

ルイージ「僕？」

クツパ「そうだお前だ！」

ルイージ「いやいや僕は入りたくないよ」

クツパ「がははは、足を引っ張りそうだが特別に連れて行ってやる
！」

どきゅーん

クツパ「逃げるなー」

ドカツ！

ノコノコ「すみませんただいまとうじょうします。おい、こっち
だぞ！」

ざっざっざっざ

クツパ「がははは、軍団に1人増えていざ出発するぞ！」

ノコノコ「以上とうじょう終了しました。1人除いて」

クツパ「何ー」。大至急発信するのだ！」

ドキュン

たたたたたガシッ

カメジェット内部

放送「おいマリオと緑のひげ！」

マリオ「なんだ！？」

ルイージ「緑のひげって、僕のことか・・・」

放送「マリオと緑のひげに言う今からピットに来い！」

マリオ「ルイージ行こう！」

ルイージ「緑のひげって、緑のひげって、しくしく」

マリオ「ほら行くぞ！」

ルイージ「うっうん・・・」

ノコノコ「ちょっと待てそこのお前たちだ！」
マリオ「何？ノコノコ？」

ノコノコ「お前らパスポート持っているか？」
マリオ「えーとパスポート、パスポートあった」

ノコノコ「そうだそれがパスポートだ・・・あれ？写真がない。写真がないとマメーリア王国へ入れないぞ！」

マリオ・ルイージ「え〜〜」

ノコノコ「しかし大丈夫だ。ここでお前たちの写真を撮ればいいことだ」

ルイージ「いい考えだね」

マリオ「じゃあさっそく撮ろう」

ノコノコ「よし、ではそのマットに乗ってくれ！」

マリオ「乗ったよ！」

ノコノコ「じゃあ緑のひげはその辺にいてくれ！」

ルイージ「また、緑のひげだって・・・しくしく」

ノコノコ「撮るぞー！。おい、じっとしてくれ勝手にポーズをとるんじゃない！いくぞーはい、ポーズ！」カシャッ

マリオ「次はルイージだぞ！」

ルイージ「うん」

ノコノコ「じゃあ撮るぞー！はい、ポーズ！」カシャッ

ノコノコ「よしこれで二人ともパスポートに張ったな。じゃあクツパ様に会いにいきな」

マリオ「ありがとよ」

ノコノコ「うーん、あれがこうで、これがこうで、間違えたら最初からやり直した。！、あっマリオ俺だよ俺」

マリオ「誰？」

ノコノコ「あの時道を聞いたノコノコだよ。あの時はありがとよ。お札にこれをやる！」

マリオは1UPキノコをもらった
マリオ「ありがとよノコノコ！」

ノコノコ「まてー！」てててて

ノコノコ「まてー！」！ざっざっざっざっざびゅん

ノコノコ「……。これじゃあ一個も終わらないよ。クッパ様の手
伝いもあるのに……。！あっマリオ！」

マリオ「なに？」

ノコノコ「バトルでこいつを捕まえてくれ！まずは踏んでみろ」

ピョン！ドカッ！

ノコノコ「そうだバトル前に踏めば追加攻撃ができるぞ！しかし後
ろのひげが当たると一時行動ふかになるからな！」

マリオ「よし！勝ったぞ！」

ノコノコ「ありがとよ！」ポイツポチッヒュ〜ドカッ！

ノコノコ「ありがとよっと終わったよ。ピットはすぐそこだぞ！」
マリオ「ありがとう、ノコノコ」

ピット前

ノコノコ「誰だ！こんな所に箱を置いたのはこれじゃあピットにい
けないぞ！」

マリオ「あんなところにブロックがある」ピョンドカッ
ガ〜〜〜

ルイージ「この箱だよ〜」

ピタッ！

ルイージ・マリオ・ノコノコ「？」
が〜〜〜

ルイージ「わ〜〜〜〜」

マリオ「ルイージー……大丈夫か？」

ノコノコ「あゝあ間違えて持っていかれたな、仕方がない監視役に
でもしよう」

ノコノコ「クッパ様、もうすぐでキノコ王国とマメーリア王国の国境を超えます」

クッパ「うむ、ご苦労」

ルイージ「うわわわなんだ〜」

クッパ「どうした何か見えるのか？」

ドカンッ！

ルイージ「あわわわわ」ポムッ

クッパ「どうしたことだ。ムッ！！」

ドドドドッ

???「ゲヒヤヒヤヒヤ、このゲラゲモーナを追いつこうとは1000000年速いわ！」

クッパ「お前がピーチの声を奪ったんだな！？」

ゲラゲモーナ「ゲヒヤヒヤヒヤ、そのとおり！」

マリオ・ルイージ「！！！！」

ゲラゲモーナ「今からマメーリア王国を支配しようと思っているんだ。ゲラコビッツ！やっておしまい！」ビューーーン

クッパ「ンガーーー待てー」

ゲラコビッツ「あははははお前達ではゲラゲモーナ様には追いつかないる、お前達はここにくたばるのだるる」ボンドカツ！

クッパ「グハッ！」

マリオ「クッパ！大丈夫か！」

ルイージ「あれ？兄さん！ゲラコビッツがいないよ！」

マリオ「まさか！本当にいない」

ゲラコビッツ「あははは」

マリオ・ルイージ「うわ〜」

ゲラコビッツ「まずはお前達から倒してやるる」

バトルモード

マリオ「おりゃっジャンプだ！」ドカツ！

ルイージ「僕も！」ドカツ！

ゲラコビッツ「痛いるるね、じゃあこっちからも攻撃する！」ボンツ
ドカツドカツ ボンツ

ゲラコビッツ「アガッ」ボカン！

ゲラコビッツ「今度は転がって攻撃するるる」ゴロゴロ

マリオ「当たるか！」ドンツ！

ゲラコビッツ「アガッ！るるこんなこともあるうかと、いらしゃい」すすすスポッ

ゲラコビッツ「ゲヒヤヒヤヒヤッ」

ゲラコビッツ「あははは、あまり効かないるるね。こうするしかないる」ボカンボカンボカン
ゲラコビッツ「あははは」

マリオ「待て」

マリオ・ルイージ「わあ」
ドツカ」

次回、チャレンジコッキージャンプ！

マリオ「準備だよ!それと、出発だ!」(後書き)

今遊び中

テスト期間なのに・・・

チャレンジ！コツキョージャンプ！（前書き）

やっと、テスト終わったー

チャレンジ！コツキョージャンプ！

爆発後

??? 「なんだ！？今の爆発は！？」

??? 「大至急調べるのだ！」

??? 「空から謎の流れ星が落ちてきたぞ！」

??? 「墜落したぞ！大至急調べるぞ！」

??? 「大至急！大至急！」

ルイージ「うゝん、痛かった。あれ？兄さん？あっ！」

何とマリオは地面にめり込んでいたのだ！

ルイージ「大丈夫、兄さん？」

反応なし・・・

ルイージ「一回引っこ抜いてみよう。よいしょ、よいしょ」ズボツ
！「わっ！」

ルイージ「ん？あれ？何もない？」ヒューーズボツ！「ギャツ」

マリオ「あれ？ルイージの声が聞こえたのに？」

ごごごご

マリオ「何だ！？地震か？」ごごごズボツ「わっ」

ルイージ「埋まっていたんだよ」

マリオ「そうかそうかわかったよ。行こう！」

ルイージ「うん！向こうにクッパが落ちていったんだって」

マリオ「じゃああの建物を超えなければいけないな」

ルイージ「中に入ってみようよ」

マリオ「そうだな！」

建物の中

マリオ・ルイージ「あっ！」

??? 1 「おっマリオブラザーズが来たぜ」

??? 2「おい！コッキョージャンプしないと通れないぜ！」

マリオ「するしかないようだな」

ルイーダ「そうだね！」

ブロス1「よしいくぜ！」

ピョン！ピョン！

ルイーダ「わっ、足が引っかかった！」

ピョン！ピョン！ピョン！

ブロス2「よしクリアのようでないジャンプだったぜ！」

ブロス1「その先を進めばマメーリア王国だぜ！」

マリオ「ありがとよ」

ルイーダ「じゃあね！」

ブロス「ちよっと待ちな」

マリオ「なんだ？」

ブロス「これを持って行っててくれ！」

マリオは地図をもらった

ブロス「地図の開け方はわかるよな？」

ルイーダ「わかってるよ」

ブロス「それならいいや気をつけて行けよ！」

マリオ「ありがとな」

チャレンジ！コツキョージャンプ！（後書き）

いやゝ本気でやるとレベルとコインが大量に・・・
目が（\$—\$）こんなことになってしまうよ・・・

星ヶ原の軍曹（前書き）

マリオ「何！？おかしなキャラが出るだど！？？」
スマッシュ「うん、そうだよ」
ルイージ「何されるのやら・・・」

星ヶ原の軍曹

マリオたちの墜落地 星くずヶ原

その近くの城を越えたマリオとルイーダ 地図をもらい進んでいく

マリオ「いったんこの上に行ってみるか！」

ルイーダ「うん、そうだね！」

マリオとルイーダが上るとそこには

マリオ「あれは！？！」

ルイーダ「そうだよ！？！」

マリオ・ルイーダ「クッパ！？！」

マリオ「よし踏んで助けてやる」

ピョンツコイン！コイン！クルッ！

マリオ「やっぱクッパか・・・」

クッパ「おお、マリオと緑のひげか、早く我輩を助けてくれ・・・」

ヒューーードン！

「ケケケケケケ！クッパであろうものが大砲の中へ、落っこ

ちるなんてなんてザマだい！！」

クッパ「キサマ、何者だあ！？！」

「ケケケケケケ！！わしは、この星くずヶ原の大魔王、ホッ

スイー様だ！お前の、噂は聞いているが大したこと、ないではない

か！ケケケケケケケケ！！」

クッパ「グオーー！！」

ホッスイー「ケケケケケケ！もし、そこから、出してほしかったら、

ワシにコインを渡すんだな！コインを全部渡せば自由になれるゾ！

この恥ずかしい出来事も秘密にしておいてやるゾ！」

クッパ「・・・く、くやしいぞ！くやしいぞ！」

マリオ「おい！俺たちが持つてるコインを渡すぞ！」

マリオはホッスイーにコインを全部渡した

ホッスイー「ケケケケケケケ！こりゃ、キノコ王国のキノココインじゃねえか！ここは、マメーリア王国だぜ！外国のコインは両替しないとな！えー本日のかわせレートではキノココイン100枚はマメーリアコイン10枚ナリ。たったコイン10枚ならこの秘密をうっかりバラしちゃうかもナリ。ケケケ。・・・ということ、マメーリアコインをあと100枚！！この、星くずヶ原で集めてきたら、クッパを助けてやる！」ピョン！ドシン！

マリオ「うーんコインを取ってくるのか・・・」
ルイーダ「そうだね。敵やブロックから出るし・・・」
マリオ「行くか！」

ごごごご

マリオ「なんだ？また地震か？」
がぁー

ウィーン

「星かげ軍曹！さっきの流れ星はわが国を襲うエイリアンかも・・・ダ！われわれ星かげ兄弟の名にかけて何としても見つけ出すのダ！」

マリオ「ルイーダちょっとかたかせ！」

ルイーダ「うんいいよ」

マリオ「よいしょ！」

「星かげ軍曹！正面に緑の物体が動いたであります。目にしみるほど鮮やかな緑色であります！」

「うむ！こちらも確認完了！しかし、緑ではなく赤色である！大至急、自分の目で確認するのダ！」

「しゃかかかこくんこくんざざざざざくるるくるるくるるドカンッ！」

「おお！なんと！キノコ王国のマリオ殿ではないか！」
「なんとこちらはルイーダ殿！」

??? 「星かげ軍曹! は、早くサインをもらうのだ! 」

マリオ 「ピーチ姫の美しい声が取られてしまいました」

星かげ軍曹 (赤) 「それはなんとしても声を、取り返さなければならん! われわれもなにか協力しようではないか! 」

星かげ軍曹 (緑) 「では、われわれ、星かげ兄弟のブラザーアクションを、こっそりと教えるであります! マリオ殿、ルイーージ殿! スペシャルなブラザーアクションを今から、特訓するであります! 」
マリオ 「うけようじゃないか! 」

ルイーージ 「そうだね、僕たちの強さ見せつけようよ! 」

星かげ軍曹 (緑) 「高いところへジャンプしたい時は、ルイーージ殿がマリオ殿を踏んづけるとハイジャンプになるで、あります。これで1人のジャンプより高くジャンプできますであります! 」

ルイーージ 「やってやるよ! 」

星かげ軍曹 (緑) 「それではルイーージ殿! 今のハイジャンプを使って右の段差に上がってみるのだ! 」

ルイーージ 「僕が兄さんの上に飛びジャンプして段差に上る! 」

星かげ軍曹 (緑) 「よくできました! 1人ではあがれない段差もこのハイジャンプを使えば上がるであります! 」

星かげ軍曹 (赤) 「今度は前と後ろを交代。マリオ殿を後ろになつて動きます。」ピョン!

星かげ軍曹 (赤) 「こんな風に肩車するのだ。2人一緒にスピンしながらしばらく宙に浮くことができるのだ! 浮いたまま移動が可能なのだ! このスピンジャンプを使えば幅の広い、谷や溝も飛び越えられるであります! 実際にやってみようではないか! 」

マリオ 「やってみよう! 」

星かげ軍曹 (赤) 「それではマリオ殿! 今のスピンジャンプを使って右の足場まで移動してみるのだ! 」

マリオ 「ルイーージと前後交代してルイーージの上に俺が乗ってルイー

ジが回転ジャンプする。そして回転をいかして向こうまで進む!」

星かげ軍曹（赤）「お見事!」

星かげ軍曹（緑）「このように後ろの人が行うアクションをブラザーアクションといいます!まさに兄弟でなければ出来ないアクションであります!」

星かげ軍曹（赤）「以上特訓終わりっ!」

星かげ軍曹（赤）「それでは特訓の成果を見せてもらおう!今教えたハイジャンプとスピンジャンプを使ってあそこにあるフラッグの所まで行ってみるのだ!」

・・・

星かげ軍曹（赤）「うむ・・・さすがマリオ殿とルイージ殿、スーパーな兄弟である!」

星かげ軍曹（緑）「ハイジャンプとスピンジャンプを完璧にマスターしたのであります!」

ピョン!

星かげ軍曹（赤）「マリオ殿とルイージ殿の冒険の無事を祈って」

星かげ軍曹「けーれっ!」

ウィーンがしゃ・・・

マリオ「さてブラザーアクション覚えたからコイン集め再開しようか!」

ルイージ「ブラザーアクションやってて忘れていたよ」

マリオ「じゃあ行こう!」

ルイージ「うん!」

???「マリオ殿、ルイージ殿!」

マリオ「???」

がしゃウィーン

星かげ軍曹（赤）「感激の再開なのだ!」

ウィーン

星かげ軍曹（緑）「じつは先ほどすっかり言い忘れてたことがあったであります！」

ウィーン

星かげ軍曹（赤）「フィールドで新しいアクションをマスターするとバトルでも新しい攻撃ができるのだ！」

ウィーン

星かげ軍曹（緑）「先ほどブラザーアクションをマスターしたのでバトルでも新しい技が使えるであります！」

ウィーン

星かげ軍曹（赤）「さっそくバトルでその技を確認してみるのだ！」
ウィーーーーーウィーン

マリオ・ルイージ「なんだ~~~~~!?」

くるくるぴゅうぴゅうぴゅうぴゅうぴゅうぴゅう!

バトル開始
バトルのときのブラザーアクション

星かげ軍曹（赤）「それではブラザーアタックの特訓開始っ! ブラザーアタックとはマリオ殿とルイージ殿が2人で攻撃する技なのだ! それではマリオ殿攻撃してみるのだ!」

マリオ「行くぞルイージ!」

ルイージ「おう!」

マリオ「たたたっピョンッتونッくるくるパシックルッドカッ!」

ルイージ「たたたピョンパシックルッドカッ!」

（これは次からはこの効果音を出しません）

星かげ軍曹（赤）「たまに2人の内どちらかがアクションアタックをひらめくかもしれないのでとにかく成功させるのだ! 以上! ブラザーアタックの特訓終わりっ!」

星かげ軍曹（赤）「・・・ということで、フィールドでアクションを覚えたらバトルでも使ってみるであります!」

ピョン！

星かげ軍曹（赤） 「それでは今度こそマリオ殿とルイージ殿の冒険の無事を祈って」

星かげ軍曹 「けーれっー！」

ウィーンガシャン

マリオ 「とうとう100コイン集まったからさっきの所へ行こう」
ルイージ 「うん・・・」

星ヶ原の軍曹（後書き）

今回はちゃんとゲームをしながら書いていました。
マリオ「よい子のみんなは真似しないでね」
ルイージ「うんうん」

初ボスバトルとウフマウンテン（前書き）

100コイン集まってホッスィーにクツパを助けてもらうため行く
マリオブラザーズだが・・・

初ボスバトルとウフマウンテン

マリオ「100コイン持って来たぞー！」

ホッスイー「ケケケケ？お前達のコインはただいま100枚……。ふふーん、やるじゃねーか！それじゃ100枚全部もらうぜ！」

クッパ「は、早く、ここから出すのだっつ」

ホッスイー「え？そこから出す？お前を助ける？何のことだい？？」
クッパ「ダメしやがったなあー！！」

ホッスイー「ケケケケケケ！ここはもうキノコ王国じゃねえんだ！よそ者はとっとと消えな！」

バトル開始！

マリオ「ルイージ！さっきのブラザーアタックするぞ！」

ルイージ「いつでもいいよ！」

ホッスイー「かかって来い！」どかん！「ウグ……」

ルイージ「きいてるよ！次、僕の攻撃！」

マリオ「これがルイージと俺の必殺技だ！」

ホッスイー「ふーん、やるじゃないか！では、こっちも攻撃するぞー！」

ポイツ！

マリオ「うお！」

ルイージ「わっ！」

ホッスイー「ケケケケ！難しいだろう。ワシの投げる手を見ていても無駄だゾ。」

マリオ「よし、もう一回攻撃だ！」

ルイージ「うん！」

ホッスイー「ん！なかなかやるな。じゃ、これはどうだ！ケケケケケ！ポイツ！」

ルイージ「わっ！跳ねてるよ！」

マリオ「ひるむなどんどん攻撃しよう」

ホッスィー「ぐへー！ー！ー！」

終了

???「さつきからゴチャゴチャとうるさいであります！」

マリオ・ルイージ「えっ!？」

ウィーン ボッ! ウィーン

クッパ「ヒェ~~~~~~~~ッ!!マ、マリオ~~~~!緑のヒゲ~~~~!!ピーチ姫の声を必ず取り戻すのだ~~~~!!あとはまかせたぞ~~~~!!」

ドカーン!

マリオ「ルイージ!クッパの行ったとおりピーチ姫の声を取り戻そう!」

ルイージ「緑のヒゲ・・・」

マリオ「おい!ルイージ!」

ルイージ「わっ!兄さんか・・・うん、わかった、クッパに頼まれたから行こう!」

ルイージ「洞窟を抜けたら明るくなったよ!」

マリオ「村でもあるのかな?」

ルイージ「奥へ行ってみよう!」

マリオ「そうだな!」

???「くせのもだー!」

マリオ・ルイージ「わ~~~~!」

兵隊1「つ、ついに見つけたぞ!マメック王子をどこへやった!？」

兵隊2「お前達が我が国のマメック王子を連れ去ったに違いない!」

兵隊3「目撃者もいるんだ!素直に白状せい!」

マリオ「俺達はマリオと」

ルイージ「ルイージというものです」

兵隊1「何?マリオとルイージだと?」

兵隊2「キノコ王国のスーパースターがこんなところにいるはずがない！」

ホッスイー「ケケ、ケ、ケケ、ケ・・・そいつら嘘ついてないぞ・・・」

兵隊1・2・3「!!!」

ホッスイー「なんでもゲラゲモーナというやつを追いかけて来たそうだ・・・見かけより強いぞ・・・」

兵隊1「こ、これは、これは、失礼いたしました。実はこの国のマメック王子が何者かに連れ去られたらしい・・・と言う連絡がこの先のウフ村からありまして・・・犯人の手がかりを捜していたのであります」

ルイージ「へへへ」

兵隊3「目撃者によると、マメック王子を連れ去った犯人は・・・変なヘルメットをかぶって「るるる」としゃべるヤツらしいです」

マリオ「まさか!？」

ルイージ「僕も思ってた・・・」

兵隊2「何か、気がついたことがあったら、われわれに知らせてください」

兵隊1「調査再開！」

マリオ「じゃルイージ、ゲラコビッツっていうやつ探そうか・・・」
ルイージ「そうしよう」

マリオ「あっ!あれは!」

兵隊「マッ、マメック王子をかえせ〜!」ドカン!

ゲラコビッツ「ははははは」

マリオ「おい!ゲラコビッツ!」

ゲラコビッツ「んげげ!お、お前達!クッパと一緒に吹き飛んだはずるる!」

マリオ「とうとう追いついたぞ!」

ゲラコビッツ「ふ、ふーむ・・・ワレがマメック王子で、てこずっ

ていたスキにすっかり追いつかれたるね！ふるるるるるる！しかし、ゲラゲモーナ様はマメーリア城で、すでに、次の作戦、開始中るる！どうせお前達は間に合わないるけど念のため・・・ここ
で足止めるるよう！」ヒュードン！

ゲラコビッツ「ふるるるるるるる！この岩を壊さないかぎりお前達はこ
の山から下りられないるるる！」

マリオ「まてー！ー！くそっ！」

ルイージ「この岩・・・ひびがはいってるよ！」

マリオ「そうか、ハンマー、持ってこりゃよかった・・・」

ルイージ「そういえば、この村の住人から聞いたけどハンマーを作
ってる職人がいるって聞いたよ」

マリオ「そうか！それなら話が早いや！もらいに行こう！」

マリオ「この家だな！ルイージ！」

ルイージ「そうだよ！この家だよ！」

マリオ「はいってみよう」

家の中

???「こ、これが、最後の石がよ！ハンマー兄弟の意地を見せる
がよ！」

???「ひとすじの望みに、この石にかけるだよ！」

どかどかどか！

ハンマー兄弟（赤）「はあはあはあ・・・・・・やっぱり、
こんな石じゃ駄目がよ。もうハンマーは作れないがよ・・・」

ハンマー兄弟（緑）「ん？オメーら、そんなところで、なに、ボケー
ツと見てるんだ？」

ルイージ「ハンマーを作って欲しいんだ」

マリオ「そうそう」

ハンマー兄弟（緑）「ん？何？ハンマーを作って欲しい？？」

ルイージ「そうな・・・」

ハンマー兄弟（赤）「ほ！オラ、こいつら知ってるがよ！キノコ王国のマリオとルイージがよ！ジャンプとハンマーの達人がよ！」

ハンマー兄弟（緑）「あー、そうだよ！そうだよ！オラも思い出しただよ！そんな有名人がどうしてこげなとこれでハンマーが必要になっただだ？」

マリオ「えーと、ピー・・・」

ハンマー兄弟（赤）「あ、いや・・・事情は言わんでいいがよ。理由は聞かねーで頼まれた物をきっちり作る。それが、プロってもんがよ」

ハンマー兄弟（緑）「・・・そうだったがよ。・・・だともハンマー作りの材料には山な頂上にある、オホホブロックっちゅう石が必要だよ。それが、突然プスラノドンが戻って来なくなったせいで頂上に行けなくなったんだよ！」

ハンマー兄弟（赤）「オホホブロックは硬い石でよ、この石から作る、ハンマーならどんな硬い物でも壊せるがよ！オホホブロック取りに山の上さ登りたいけどよジャンプがうまくねえから、無理だあ・・・」

マリオ「それ！」

ハンマー兄弟（緑）「ん？ああ、そうか。オメーら、ジャンプのプロだったな。」

ハンマー兄弟（赤）「ちゅーことは山の頂上さ行ってオホホブロックを取ってきてくれるっちゅーことがや？」

ルイージ「そうだよ！」

ハンマー兄弟（緑）「それは、助かるだよ！オホホブロック、取ってきてくれたら特製ハンマーを作ってやるだよ！」

ハンマー兄弟（赤）「もちつもたれつ、がよ！」

マリオ「わかったぜ！」

外

ルイージ「あれ？兄さん橋直ってるよ！」

マリオ「そういえばこの奥が山頂に続くんだな！」
ルイージ「行こう！」

山の途中

ルイージ「あれ？道がないよ？」

マリオ「看板がある！見てみよう！」

看板

ー生水 注意ー

水の飲みすぎに気おつけよ

のみすぎたらふんずけてもらおうべし

噴出した水を周りの物に

当てることは硬く禁ずる

マリオ「まあ、とりあえず、水を飲んで怪しいところにぶつけろって意味だな」

ルイージ「そうかなあ？」

マリオ「じゃあ、口に水をふくむからな！怪しいものところまで行くから俺の頭を踏めよ！」

ルイージ「わかった・・・」

ぶくぶくぶく・・・

マリオ（さて、怪しいもの、怪しいもの・・・あった！）

ルイージ「どこ行くの？」

マリオ（これ！）

ルイージ「これにかけるのどう見たって炎を上げた埴輪だよ」

マリオ（いいから！）

ルイージ「わかったよ！」ぶしゅー！（ごごごごご）・・・

マリオ「言ったとおりだろ！」

ルイージ「どうやってあの竜巻の飲み込まれるの？」

マリオ「簡単だろ！スピンジャンプで行けばいいじゃないか！」

ルイージ「そうだった」

次回、山頂で戦いとオホホブロックとマメーリア

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8071y/>

マリオ&ルイージ1・2・3

2011年12月2日17時51分発行